

は承届、銀高之内或半分又は三の上之候人々茂有之候得共、是以後猶更嚴重會議可有之事に候條、兼而各被致其心得、專儉約を用候様、夫々支配之人々に急度可被申渡事。

以上

(寛保元年)
西十一月十日

一九家中參會之儀に付觸

近年御家中之人々行跡不宜者共有之、第一侍に不似合參會茂有之由相聞、沙汰之限に被思召候。急度御糺可被成候得共、此度は先御猶豫被遊候。是以後相嗜不申候ば、嚴重に可被及御沙汰候事。

一、歷々之内、御用之筋申談無之候ても罷成候儀を、御用に事寄或は稽古事を申立出合、夜中迄茂酒宴遊興之人々茂有之由に候。ケ様之儀は有之間敷儀に候處、不愼之至に候。是以後右之族於有之は、急度御咎可被成事。

一、頭分之内にも、無故繁々致參會候者も有之由被聞召候。組・支配も有之者は、少々心得違有之候ても、末々一統之見習罷成、組・支配不愼之基に候得ば、嚴重に相心得

可申事。

右之通被仰出候事。

(寛保三年)
亥六月

前紙小紙に、諸組之人々組入仕候得ば、座入と名付、美食を認參會有之由に候。向後は堅く右之族無之様可被申談事。

二〇御入國道中御供人心得之儀觸

今般御道中御供之人々、成程事輕に相心得、武器之分は不殘相揃、武備不欠様相心得可申候。衣類、并近來鎧持など奴を召連、形粧を飾候人々も有之、いかゞ敷被思召候。且諸物新に調申様成儀、一圓有之間敷候。馬具等之儀は見苦無之程に仕、儉約を專に相心得可申候。御入國と申所に入々心付、美麗を好申儀不應御意候。兎角近年護國院様御往來之御時分より、猶以事輕に相心得、武器之外見苦敷儀御食着不被遊候旨被仰出候條、被得其意、萬端事輕仕、花麗

之儀無之、儉約を專一に相心得候様、組・支配之人々に急度可被申渡候。以上。

(延享二年)
八月

御供之頭中

横山大和守

二一代替之節儉約油斷無之儀觸

御儉約之儀、御先代段々被仰出候趣共有之、諸場・諸役人油斷無之儀候得共、年々御不足之上、今年別而被指支候處、今度之御入用共折重り、彌御要脚御指支、當然之御運茂被辨兼候。依之畢竟各別之被仰出無之候はでは難被爲成候條、御役人は勿論之儀、末々之者迄致和順、御儉約之筋相立候様相互に可致會議候。御代替に候とて、人々心得違有之間敷候得共、猶更右之趣一統嚴重に可相心得段被仰出候事。

以上

(延享二年)
九月

二二江戸詰之者衣服等之儀觸

近來江戸詰之者共萬端花麗に相成、火事裝束并常之衣裳に至迄殊之外結構に候。頭共不心得成儀に候。是以後は急度遂省略勝手取續、御奉公を可心懸事候。且又地・他國共年若成人々等は、度々之參會無益之費も有之由に候。何茂遊樂を好み、文武之學問に志無之故、おのづからかやう之事に候。旅行之様子は先達而茂被仰出候得共、近年年若なる者茂駕籠乗用多候。ケ様之儀は、頭・支配之人々不心得故に候。是以後無油斷可相心得候。

以上
(延享二年)
十一月

二三五ヶ年間嚴重儉約之儀御定

勝手方連々困窮之上、去年以來別て入用指づとひ、是以後取續手段も有之間敷段承候。如此にては、仕置等にも相障可申候得ば、甚急成事に候。依之五ヶ年之間嚴重に儉約申